

# 保健体育科学習指導案（I限）

授業者 藤本隆弘

クラス 4年DE組（男子44名）

場 所 体育館

## 1. 単元 器械運動（マット運動） ～ひとりで、ふたりで、みんなでするマット運動～

### 2. 教材観

学習指導要領では、器械運動について①技能の内容「自己の能力に応じて運動の技能を高め、技が円滑にできるようにする。」、②態度の内容「互いに協力したり補助したりして練習できるようにする。また、器械・器具を点検し、安全に留意して練習や発表ができるようにする。」、③学び方の内容「自己の能力に応じた技を習得するための計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。」としている。マット運動は技の習得をめざして、その動き方を覚える中で動きのコツを身につけ、動き方を改善していくことによって「いつでもできる」状態にし、さらにそのような運動を組み合わせることで達成感を味わう運動である。

しかし、これまでの個人が技を習得し、組み合わせる発表する授業においては、「自己の能力に応じて」は自己の限界を低く設定する生徒がいたり、また、「互いに協力したり補助したり」することについても、個人種目であることが協力しにくくさせ、補助もすすんでしないなどの課題があった。私自身がそういった生徒たちに意欲を十分にもたせてやることができず、もう少しお互いが関り合い、お互いを高めあうマット運動はできないものかと考えていた。昨年、当校でおこなった高校2年女子のグループマットの授業では、生徒同志が新しい技に挑戦し、失敗しても励ましあったり、補助をすすんでするなど活発な関り合いが行われていた。そして、授業後の感想ではグループでやることの楽しさやグループだから意欲的に取り組めたこと、音楽に合わせて演技を行うことの気持ちよさなど述べていることから、男子にも有効ではないかと考えた。技能差のあるメンバーで構成した5～6人のグループでペアやトリオになって課題練習に取り組んだり、グループ演技に取り組むことがそれぞれのもつ技能を最大限に引き出すことになり、さらに筋力を活かした組体操的な内容やほん転技を取り入れることよりダイナミックで変化に富む構成ができあがるのではないかと考えた。グループ演技を目標にグループで活動する中で、技のポイントを発見・共有できるようにして、それをもとにアドバイスしあい、より意欲的に学習に取り組めるような授業にしたい。

### 3. 単元の評価規準

#### ①関心・意欲・態度

・練習で技能を高めることの楽しさや喜びを味わおうとしている。

#### ②思考・判断

・自分や周りの人の技能を把握し、お互いにアドバイスすることができる。

### ③技能

- ・グループ演技で自分の力を十分に発揮ができる。

### ④知識・理解

- ・グループ演技の技の構成を知っている。

## 4. 単元計画（本時は第8時間目）

時間	項目	学習内容	
1	技能調査	既習技・できる技の確かめ グループ分けのプレテスト	
2	オリエンテーション	グループマットの授業の進め方	
3～5	トリオの課題	課題に2人で、3人で、一緒に、順々に、交互に、取り組む。	それぞれの技を洗練させる。 新技に挑戦する。
6～⑧	グループ演技	協力してグループ演技を作る。	
9	中間発表	演技の発表と他のグループの観察をする。	
10～12	グループ演技	グループ演技の完成をめざして取り組む。	
13	演技発表会	演技の発表と他のグループの評価をする。	
14	学習のまとめ	事後アンケート	
15	技能のまとめ	技能テスト	

## 5. 本時のねらい

- ①個やグループの課題を明確にし、意欲的に取り組む。
- ②関わり合いを大切にし、工夫しながら技能を高める。
- ③中間発表に向け、それぞれの持つ技能を生かしながら、グループ演技を構成する。

## 6. 指導展開過程と評価

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	○練習場の準備 ○集合・出欠点呼 ○本時の学習内容の確認 ○準備運動	○安全に、確実に準備する。 ○健康観察・見学者への指導。 ○本時の学習課題を把握させる。 ○十分にできているか。	
展開	○課題練習 ○グループ演技	○協力して、能率よくできているか。 ○お互いにアドバイスできているか。 ○それぞれの役割を果たしているか。	④
整理	○整理運動 ○本時の反省、次時への課題 ○片付け	○十分にできているか。 ○よかったところを発言させる。 ○次時の内容を伝え、課題を考えさせる。 ○協力してできているか。	②